



第 16 回 ロータリー月例報告書

2021 年 12 月

今年もあっという間に 12 月になり、ニューヘイブンでも雪マークの天気予報をちらほら見かけるようになりました。第 16 回目の月例報告書では 2021 年 11 月から 12 月までの生活状況をご紹介します。

今月は月末のサンクスギビング休暇に向けて研究の進捗を早めるため、とりわけ実験に集中したひと月になりました。今夏の終わり頃に研究室が新しい高額の測定機を購入し、ひよんなことからその装置の責任者を務めることになりました。普段は学生をプッシュすることはあまりないのですが、指導教授が珍しくこの新しい測定機に強い関心を示していたので、自分のサイドワークとして装置を徐々に動かし始めにしました。新しい作業がひとつ増えただけで一日の余裕が無くなり、体力的にも消耗することが増えました。最近、同じ研究グループで尊敬している博士課程 5 年生のアメリカ人にライフワークバランスについて尋ねました。彼は前回の短期留学の時から良い友達で、北海道大学で出願準備をしていた際にもエッセイの推敲を手伝ってもらったりしていました。彼はその突出した業績もさる事ながら、決してむやみやたらに働き過ぎず、作業時間を抑えながら成果を上げることがとても上手です。彼のスケジュールでは朝 7 時からオフィスで作業を始め、午後 2 時には集中力が途切れ始めるのでジムへ行き、そのまま帰宅して午後 5 頃には夕食を済ませ、就寝する前にもう 3 時間程度作業するという事でした。これで 1 日 10 時間の作業時間を平日に確保し、これ以上もこれ以下も働かないそうです。流石にこのような時間割を真似することは出来ないで、先ず土日は作業しないというところから始めてみました。今までは疲れるまで、また予定が空いている限りオフィスでも自宅でも作業をする習慣でしたが、新しい装置での実験を追加し始めてから土日はきちんと休むことにしました。初めのうちは進捗が遅れそうな気がして落ち着かない気分だったものの、慣れは怖いもので今では土日になると自然にスイッチが一旦切れ、良い具合に月曜日が待ち遠しくなるようになりました。博士課程プログラムは道のりが長いので適度なバランスを見つけて行きたいと思います。

ようやく先月初めに大学の日本人会を開催することができました。今回は 9 月に新しく来られた学部生と大学院生の新入生歓迎会という名目で中華料理店にて行いました。去年の反省を生かし、学生がマイノリティにならないよう広報に配慮したところ、合計 30 人弱が集まり大盛況となりました。その多数を占める経済学や MBA の学生に加え、ドラマや映画歴史といった様々な専攻の人たちとも交流することができとても楽しかったです。学部生の新入生たちは未成年でお酒が飲めず、そのあまりの若さにショックを受けてしまいました…。

写真は毎年伝統的に行われている Yale-Harvard アメリカンフットボールの試合です。今年のサンクスギビングも大量にターキーを食べました。今月は年末の冬休みを少し前倒しして帰国する予定です。いつも国際ロータリー財団様の多大なご支援を有難うございます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

